

1 本校の概要

内子高校は大正9年（1929年）に町立内子実科女学校として創立され、昭和23年（1948年）愛媛県立内子高等学校として発足、今年で創立96年である。クラス数は1学年3クラスの329名が在籍している。生徒は内子町内が115名、大洲方面から192名、肱川・河辺・中山地区から22名が通学している。進路状況は（昨年度卒業生）大学41名、短大13名 専修各種学校47名、進学計は101名、就職14名となっている。

2 担当しているクラスの実態

私の担当しているクラス（36名男子20名女子16名）は、自宅にパソコンがある生徒は6名、携帯端末を持っているものは全員である。パソコンの扱いに長けている者とそうでない者の差は大きい。実習をするにはタイピング速度が上がらなくてはならないし2年生からのクラスのことも考えて、入学時当初よりタイピングの練習を授業の初めの10分間行っている。1学期に行った表計算の実習では予定時間を遥かに超えた時間が必要であった。タイピングの速度は当初100文字台であった者も200文字台は打てるようになった。中には500文字を超える者も出てきた。

3 主題設定の理由

メールの指導をするのに、教室内でメールのやりとりをするのが一般的だが、仕組み等ブラックボックス化して分かりにくい。そこで、生徒を実際に動かして、メールの仕組み、メールの文章の作り方、メールでのトラブルについての授業を考えた。

4 実践内容

(1) 送受信の仕組みとプロトコルについての説明

教科書の図にある送受信の仕組みを説明し（図1）、プロトコルについては生徒2人に役を与えて教科書の図を会話形式で読ませ（図2）、サーバとメーラーのやりとりを示した。

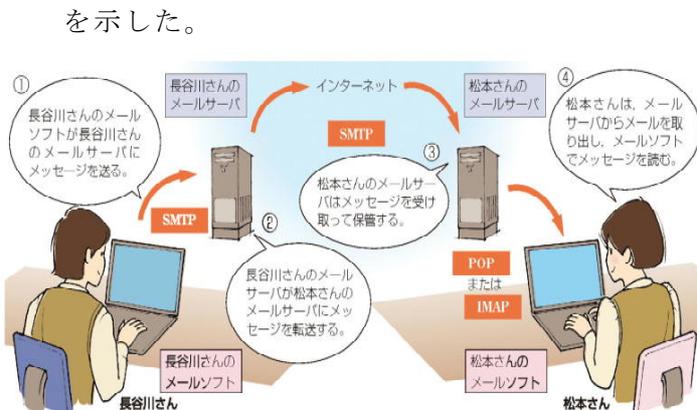


図 1

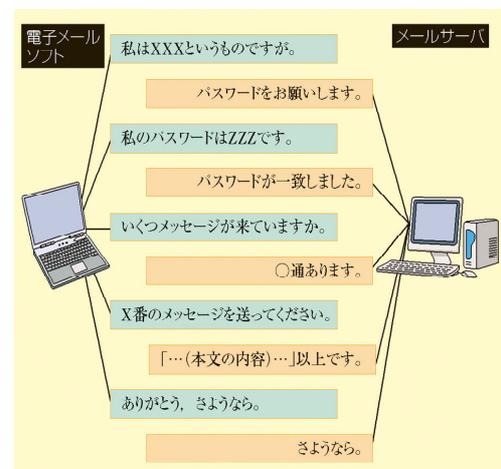


図 2

(2) メールを送る実験

紙媒体のメールを作り封筒に入れ、メールを送る実験を行った。ここでは、メールを封筒に入れる・封筒から出す作業が、メーラーがPCに扱える信号に換える、信号を人が理解する言葉に換える作業をすることとして説明した。

To : 13	@Uchikoh.ed.jp #
差出人 : #	
13	@Uchikoh.ed.jp

図 3

メールを送る実験

係：サーバ2人

ネットワーク（回線）3人

宛先（To）には 13〇〇氏名@Uchikoh.ed.jp
 〇〇には出席番号と書く。

件名（subject）には

本文

署名 内子高等学校1年3組 番 氏名
 電話番号 0893-44-2501
 E-mail クラス番号 自分の名前@uchikoh.ed.jp
 と入れる。
 書けたら
 封筒に入れ宛名 "13〇〇氏名@Uchikoh.ed.jp"
 差出人 "13〇〇氏名@Uchikoh.ed.jp"
 （〇〇は番号を数字で 氏名はローマ字で）を書いて
 回線係に渡す。

----- きりとりせん -----

To:
Subject:
本文 #
#
#
#
#
#
署名: 内子高等学校1年3組 番 氏名 #
電話番号 0893-44-2501 #
E-mail 13 @uchikoh.ed.jp #

図 4

(3) メールを書く実習

教科書の章末実習にある「メールを書く」を行う。ワープロソフトでメールのひな形を作っておき、教科書にある文章を打たせる。インターンシップを10月第3週に行ったばかりで、実習させていただいた企業宛てに送るつもりで作成させた。

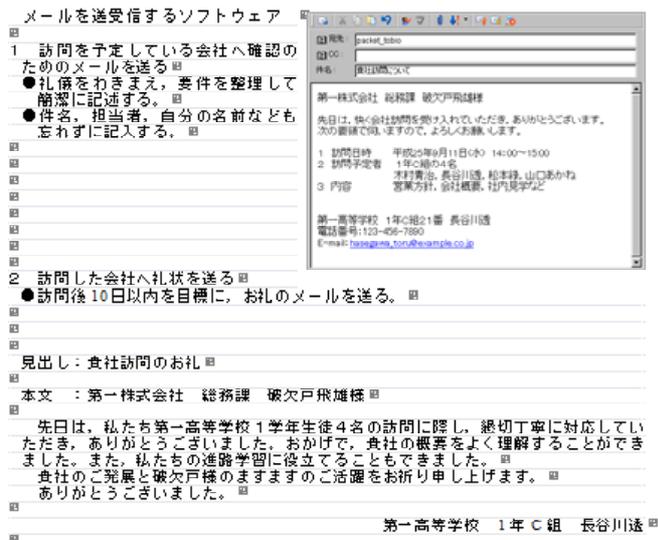


図 5



図 6

(4) チェーンメールの実験

電子メールの問題点について前の時間に学習し、チェーンメールについて具体的に実験を行った。メールを送る実験と同じようにサーバ、回線係をつくり、宛名を漢字で書かせ、署名欄にも自分の名前を書かせて作成させた。

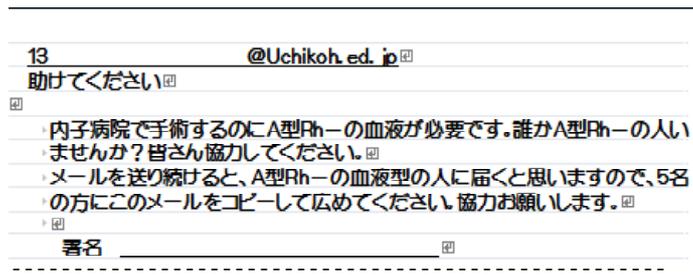


図 7

最初 1 人にメールを渡し、それからメールが広がっていくようにした。一人が 5 人にメールを送るように指示したが、1 人に 5 通のメールを送る者がいたり、宛名を漢字で書くことに時間がかかり、なかなかクラス全体にメールが蔓延しなかった。

学校訪問で各先生方から、メールの用紙はあらかじめ切り離しておけば、作業時間が短縮できる。宛名のところは簡単に出席番号で良いのでは。署名はなくても良い。メールを送るのも最初 3 通ぐらいから行えば早くメールが蔓延する。メールが広がっていく様子が分かるようにするには、1 回目、2 回目と回数を区切って行うと良い。と指摘を受けた。後日そのようにして行ったら、メールが広がっていく様子も分かり蔓延するまでの時間も短縮できた。

また、10月初旬にYahooNewsにSNS上に蔓延してるメッセージ(図 9)について授業で紹介したが、もっと詳しく説明した方が良いとの指摘も受けていたので、これも後日詳しく説明を行った。

(4) 電子メールでの注意点 チェーンメール

予備 チェーンメールについて問える。

「このメールを何人かに転送してください」とメールの内容の転送を要請する

メールのこと

電子メールを使った「不幸の手紙」や「幸福の手紙」

「転送しないと何が起るかわからない」といった注意書きがある場合が多い。

チェーンメールを送る実戦 (20分)

日時：チェーンメールを送ることにより、メールが増殖しネットワークが広まることを理解する。
 参加：送られてくるメールに答えて、他の人にメールを送る。

班：サーバー班2人 _____
 ネットワーク (四輪) 班2人 _____
 電子メール

宛先 (To) には 1名 **〇〇氏名** おひちひくおひ. ed. jp
〇〇には出席番号 氏名を書く

件名 (subject) には 助けてください
水痘
西子病院とB型肝炎の血液が必要です。
皆さん助けてください。
メールを送り続けること、B型肝炎の血液型の人に届くと悪いですので、
5名の身にこのメールをコピーして広めてください。協力お願いします。

署名 **(自分の名前)**

書いたら、ネットワーク (四輪) 班に渡す。
 メールが届いたら次々にメールを持ってネットワーク班に渡す。
◎メールを書いた枚数を記録しておく。

1年2組 _____ 氏名 _____

検査

(1) 普通のメールを受け取った方。 _____

(2) 普通のメールを送った方。 _____

(3) クラス全体でのメール拡散はいくら分。 _____

(4) サーバー班の感想 _____

(5) ネットワーク班の感想 _____

内容 (1) 1人が5名のメールを転送し、これを3回繰り返すとメールの拡散は何通になるか、図を書いて考えよう。

(2) 大量のメールが送受信されるとネットワーク、サーバーはどうなると思うか、 _____

(3) チェーンメールが届いたらどうすればよいと思うか、 _____

感想 _____

自己評価 5 4 3 2 1
 準備
 出席状況
 氏名

図 8

[トップ](#) > [新着ニュース&イベント情報](#) > [九州ブロック](#) > [SNS上でシェアされている投稿について](#)

2016/10/12 **九州ブロック**

SNS上でシェアされている投稿について

平成28年10月12日(水)頃から「九州地方でAB型のRh(-)の血液を必要とされている患者さんがいるため輸血に協力してほしい」といった内容の投稿がFacebookやTwitter上でシェアされていますが、現在AB型のRh(-)の血液が不足しているといった事実はございません。

日本赤十字社では、365日24時間体制で全国の医療機関に輸血用血液の供給を行っております。血液型別・種類別の過不足が生じた場合においても、全国7つのブロック血液センターが中心となって血液の需給調整を行っており、医療機関からの依頼に対して、可及的速やかに血液を供給する体制を構築しておりますので、ご安心ください。

図 9

5 まとめ

メーラーを使わなくても他のソフトで代用したり、具体的に生徒を動かしてイメージをつかませたりすることで理解が深まることが分かった。

簡単に携帯端末でメッセージを送ることができる世の中であるが、「相手のことや時間、マナーを守って利用したい。」「善意でのメールが色んな方面へ迷惑をかけるものもあることが分かった。」「むやみにメールを回さないことに注意したい。」との感想を書いてくれた生徒もいた。

これからも模索しながら指導にあたっていきたい。

（ 情報科・社会と情報 ） 学習指導案				
日 時	平成28年10月21日（水） 第2時限		担任者	河野 康
学年・組	1年 3組		参 照	南和教直
単 元	ネットワーク上のコミュニケーション		教科書	高等学校社会と情報Ⅰ (第一学習社)
指導目標	ネットワーク上のトラブルを防ぐためにはネットワーク、上の脅威の正しい理解と、それを防ぐ行動が大切であることを理解させる。	指導計画	1 コミュニケーション手段の発達 ……g時限 2 情報通信ネットワークのしくみ ……T時限 3 情報通信ネットワークの活用と コミュニケーションⅠ ……T時限(本時はその2)	
本時の主題	電子メールとその脅威			
本時の目標	チェーンメールのネットワーク上の脅威を理解させ、それを防ぐ行動がとれるようにさせる。			
前時の概要	チェーンメールについて調べてくる。			
学習活動	時間(分)	指導上の留意点	評価基準・評価観点等	
導入	1 タイピング練習を する。	10		
展開	2 前時の復習と本時の目標を 確認する。	5	・メールの脅威と対策を 確認させる。	・パソコン ・プロジェクター
評価	1 チェーンメールについて 調べたものを発表する。	5	・メールが増殖するだけ ではなく、ネットワー クが麻痺することに注 意させる。	
まとめ	2 クラス内でチェーンメ ールを送る実験をする。	20	・どの役割の者が混乱し ているか、着目させる。	【評価観点】 □チェーンメールがネッ トワークに及ぼす脅威 が理解できている。
	3 実験のまとめをする。	5	・一度に大量のメールが ネットワーク上で送受 信されると、ネットワ ークは麻痺することを 理解させる。	(出席・理解) 【評価方法】 □ワークシートの記述に より確認する。
振り返り	1 チェーンメールの脅威 点を確認する。	5	・チェーンメールを止め る勇気がネットワー ク利用者には必要な態度 であることを確認させ る。	
	2 本時の内容を確認す る。			
備 考	生徒数 35名 (男子20名、女子15名)			

図 10

6 参考文献・参考資料・URL等

- ・教科書 「高等学校 社会と情報」 第一学習社 p.54～71, p.76～77, p.94, 108～109 (掲載許諾済み)
- ・総務省 国民のための情報セキュリティサイト 「チェーンメールの問題点」
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/enduser/security02/11.html
- ・日本赤十字社 九州ブロック赤十字血液センター
「SNS」上でシェアされている投稿について」
<http://www.bc9.org/topics/archives/591>